

特集

千葉県にお住まいの福寿陽子さんにインタビュー

口から食べることがは私たちの悲願です

せんせいせいしきしょうがい
遷延性意識障害(植物状態)
と診断されて

タンポポ(株式会社リフシアネット)は、リフシアの介護事業から生まれたセントラルキッチン(1ヶ月に3万食を製造)です。栄養素・物性を調整した食事を医療機関へ介護施設・障がい者施設・在宅までお届けしています。タンポポのえん下食は、食材ごとにゲル化調整した食事です。開発は、歯科医師・ST(言語聴覚士)・介護職からの意見を聞きながら行ってきました。口腔内でまとまりやすく、喉もとでベタつきにくく調整されています。むせないよう咽頭での離水にも配慮しています。

このほど、やわらか食弁当に加えて在宅への商品販売(冷凍)をはじめました。特集記事として、タンポポの在宅向けえん下食をご利用いただいている福寿さん親子にお話を伺いましたのでご紹介します。

千葉県に住む福寿弘明さん(27歳)は、8年前の事故で遷延性意識障害(植物状態)と診断されました。水も飲まず、食事も口から食べられない状態だったため、気管切開したうえ胃に穴を開けて直接栄養を送り込む「胃ろう」となりました。

当時主治医から、「一生涯意識障害が続く。身体も動かない。しゃべれない。」と告げられ、母親の福寿陽子さんは「息子の人生は終わった」と言われた気持ちだったそうです。遷延性意識障害とは、交通事故などにより頭部に強い衝撃を受けいわゆる植物状態になってしまうことです。突然の事故で、大切な家族が意識不明の重体になりました。

たが、弘明さんとご家族は希望を捨てることなく一生懸命生きてこられました。



ご自宅でのインタビューに、タンポポのえん下食を手にとってくださいました。(福寿弘明さん)

在宅生活を支えるタンポポのえん下食について

2019年に気管切開を閉じてからは、まよよりも食べられるようになりました。弘明さんは重度のえん下障害があるため、食べられる市販品はパックジュレやヨーグルトなど甘いものが中心だったと言います。いつも「食事として、おかずも食べさせたい」と思っていました。そんな中、黒岩先生から『タンポポのえん下食』を今年の7月頃に教えてもらったそうです。



タンポポのえん下食

福寿さんご一家



親子写真(沖縄のホテルのプールにて)

「タンポポのえん下食があつて本当に助かりました。冷凍で届くので使う分だけレンジで温めています。味がしっかりして美味しいので、喜んで食べてくれます。重度のえん下障害であっても、安定した物性の食事が手軽に食べられるので本当に助かります。空いた時間を子供に充てることできて嬉しいです。また、心配な点はタンポポに連絡して教えてもらえることも助かりました。おかずが食べられるようになったことで、1食は、お口から食べることに変えられるのではないかと、希望が持てました。」と、嬉しい言葉をたくさんいただきました。

黒岩恭子先生(歯科医師)との出会い

リハビリ病棟で入院生活が続く中、黒岩先生(茅ヶ崎市内で開業する村田歯科医院院長)と出会いました。黒岩先生は歯科医として培ってきた技術や経験を困っている方に役立てたいと、全国各地の病院や施設、地域で治療や指導、ボランティア活動をされています。タンポポも開設当初から様々なアドバイスをいただけてきました。福寿さんは「まず食べられる口をつくりましょう!」と、先生が開発したモアブラシで口腔ケアを教してもらいました。弘明さんが入院中は、仕事終わりに病室を訪れ、毎晩口腔ケアと口腔リハビリを行いました。この時から「もしかしたら口から食事が食べられるのではないか。」と希望を持ったそうです。「口から食べるのは、私たちの悲願です」「リハビリ後は、時間が経つにつれ薄皮を向くように少しずつ良くなりました」「笑うようになり、Yes、No程度であれば合図ができるようになりました」「家族と食卓を囲む何気ない日常生活を取り戻したい」と願う、遷延性意識障害のお子さんを持つご家族の切実な気持ちがお話から伝わってきました。



2019年、青森県ねぶた祭で黒岩恭子先生と一緒に弘明さん。



リハビリの歩行訓練もしています

弘明さんの尊厳を大切にしたい

現在、弘明さんは、コロナ禍の影響をきっかけに在宅生活を始めました。訪問診療・訪問看護・訪問リハビリを使い、毎日のように通所サービスを利用して居ます。胃ろうを中心とした食生活は変わりませんが、1食だけでも「口から食べるのが悲願」と強い気持ちで今を生き抜いていらっしやいます。

タンポポのスタッフは、今回福寿さん親子と出会い、私たちが必要とされていることを知りました。このようなご縁を下さった黒岩先生に感謝するとともに、福寿さんの悲願に応えるためにも、これからも頑張つてえん下食を作り続けます。